

論 文

低量CDDP + 5FU療法を受ける患者の
口内炎の発生及び治癒過程
—事例の口内炎を経時的に観察して—

中村 一美・後藤 裕子・本山 真紀子
橋本 多恵・寺島 陽子・坂本 春栄
金沢大学医学部附属病院

A Case Study : Development and Recovery of Stomatitis in a
Patient undergoing Low Dose CDDP and 5FU Chemotherapy

Hitomi Nakamura, Hiroko Gotou, Makiko Motoyama,
Tae Hashimoto, Youko Terashima and Harue Sakamoto
Kanazawa University Hospital

要 旨

私達は、低量CDDP + 5FU療法（以下シスー5FU療法）を受ける患者の口内炎発生の要因について検討しており、高齢と義歯保有者という要因があげられた。また、この治療を受ける患者の口内炎は三比らの発生予測量前後で、急激に発生していることも確認された。今回は口腔粘膜の変化及び口内炎発生の時期を明らかにすることで口内炎発生を早期に予測し、予防のためのケアに役立てることを目的に、本治療を受ける高齢かつ義歯装着患者の事例を通し、口腔内の状態をプロスペクティブに観察した。結果、シスー5FU療法における口内炎発生の過程は、治療開始後より舌に変化が現れた後口唇に痛みを感じていることから、症状の出現が自覚症状の発現時期と異なるという過程が明らかになった。そのため、口内炎発生予測量日の7日前よりケア介入が必要であることが示唆された。